

1 設置の趣旨及び必要性

設置意義

現場の先進的な経営や高度な生産技術を生きた教材として、経営感覚と現場感覚に優れ、理論に裏打ちされた実践力を備えた農林業人材を育成。現場の顕在的・潜在的課題の解決を起点とした研究に取り組み、関係機関と連携して地域に還元することで農林業の成長産業化に貢献。

グローバルな視点で物事をとらえ、戦略的な農林業経営に取り組める農林業人材を育成。先端技術をはじめ幅広い新技術を農林業に応用するなど、既成概念にとらわれない研究に取り組み、農林業現場の技術開発を先導。

農林業を核とした関連産業の振興や価値の創出に資する人材育成及び研究開発を担い、「東北創生」の拠点となる。

養成する人材像

(1) 時代の変化に対応した経営戦略を構築できる人材

理論に裏付けられた生産技術を身に付け、時代の変化に対応した先進的な生産技術を取り入れながら農林業経営を実践できる人材を育成。マーケティングや政策などの知見や国内外への広い視野を持ち、グローバルに物事を考え、加工・販売などの経営の多角化に必要な基礎的な知識を身に付けた人材を育成。

(2) 地域をけん引できる人材

専門分野に留まらない知識・教養に加え、柔軟な発想と応用力によって課題の解決策を提案できる力を身に付け、地域をけん引できる素養を身に付けた人材を育成。

※各学科の養成する人材像とDP、CPとの対応は別紙1・2「対応関係」のとおり

2 学部・学科等の特色

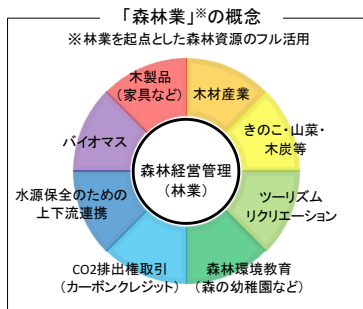
(1) 学部

農業・森林業各分野の職業専門性を高める教育と、展開科目等を通じた学科横断による学生同士の学び合いの両立

(2) 学科

【農業】単作・複合双方の経営形態への対応はもとより、農産加工・販売をはじめとする農業経営の多角化にも対応した教育研究

【森林業】林業を中心とし、バイオマス利活用、木材産業、きのこの等々の非木材森林産品、森林サービス産業等について幅広く対応した教育研究



3 大学・学部・学科等の名称及び学位の専攻分野の名称

(1) 大学：東北農林専門職大学(仮称) Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry

(2) 学部：農林業経営学部(仮称) Faculty of Management for Agriculture and Forestry

学科：農業経営学科(仮称) / 森林業経営学科(仮称)

Department of Agricultural Management / Department of Forestry Management

(3) 学位：農業学士(専門職)(仮称) / 森林業学士(専門職)(仮称)

Bachelor of Agriculture / Bachelor of Forestry

4 教育課程等の編成の考え方及び特色

「教育課程の編成及び実施の方針」を踏まえ、専門職大学設置基準に定められた分野ごとにカリキュラムを編成。

(1) 単位数

学科	科目群	基礎科目	職業専門科目			展開科目	総合科目	合計
			生産理論・技術	経営全般	地域課題解決能力			
農業経営	必修科目	9科目16単位	6科目18単位	17科目47単位	2科目4単位	-	1科目4単位	51科目 127単位
	選択科目	必修	-	-	-	2科目4単位	-	
		選択	2科目4単位	3科目12単位	-	1科目2単位	8科目16単位	
経営森林業	必修科目	9科目16単位	13科目33単位	16科目46単位	2科目4単位	-	1科目4単位	54科目 129単位
	選択科目	必修	-	-	-	2科目4単位	-	
		選択	2科目4単位	-	-	1科目2単位	8科目16単位	

(2) カリキュラム

各学科のカリキュラムは別紙3・4「カリキュラムマップ」のとおり。

(3) 教育課程の開発及び不断の見直しを行う仕組み

農林業界及び東北地域社会の関係者との連携の下、「教育課程連携協議会」を設置し、関係各界ニーズを踏まえた教育課程の不断の改善が担保される仕組みを整備。

5 教員組織等の編成の考え方及び特色

農業経営学科は稲作、果樹、野菜・花き及び畜産、森林業経営学科は森林資源管理及び森林資源利活用の各専攻分野に研究能力のある教員と実務能力のある教員とを各1名以上配置するほか、養成する人材像に関連の高い農産加工及び経済・経営の専任教員も配置し、理論と実践とを架橋した教育研究ができる体制となるよう配慮。(単位:人)

専任教員の区分	農業経営学科							森林業経営学科			合計
	稲作	果樹	野菜・花き	畜産	農産加工	経済・経営	小計	森林資源管理	森林資源利活用	小計	
研究者教員	2	1	0	1	1	4	9	2	3	5	14
実務家教員	2	2	3	2	1	0	10	3	1	4	14
うち研究	1	2	2	1	0	0	6	2	1	3	9
合計	4	3	3	3	2	4	19	5	4	9	28

※その他、学長、予備卒として各学科1人

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

授業の方法は、講義形式、演習形式及び実習形式の3つにより構成。

面接授業が基本。授業内容により、メディア(同時双方向型及びオンデマンド型等)を利用した授業も効果的に組み合わせる。各科目の受講学生数は最大40名とし、科目によっては複数クラス編成により授業を実施。

(2) 履修指導方法

入学時の学科ごとのガイダンスで、履修ガイドブック、シラバス等により履修モデル等を提示するほか、履修ガイダンスの実施による履修方法についての説明を実施。

(3) 評価方法

学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について、試験、グループワーク、発表、レポート等の組合せにより総合的に判断する。

(4) 卒業要件

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質及び能力を身に付けることのできる科目及び単位の修得をもって卒業を認める。

7 教育課程連携協議会

産業界及び地域社会との連携により教育課程を編成し、円滑かつ効果的に実施するために設置。任期は2年。再任可。

【審議事項】

- 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項
- その他教育課程の編成に関する必要な事項

区分	対象	人数	趣旨
教職員	本専門職大学教員(学部長、両学科長)	3人	他区分の構成員からの意見を汲み取り、教育課程への確に反映するため
職業	農林業関連団体役職員(農1、森林1)	2人	農林業界のニーズを、教育課程への確に反映させるため
地域	地方公共団体等職員(設置地域1、東北(農1、森林1))	3人	農林業に関する地域の実情や課題等を教育課程への確に反映するため
協力	臨地実務実習先経営者(農2、森林2※地域にも配慮)	4人	優れた生産や経営のノウハウ等を有する農林業経営体の協力を得るため
その他	学長が指定する者(高校1、観光1、食産業1)	3人	上記以外で農林業との連携の視点から専門職大学の教育課程に必要なため

8 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

面接授業を基本としつつ、以下の2つの方法のいずれか又は双方の方法を組み合わせて実施。

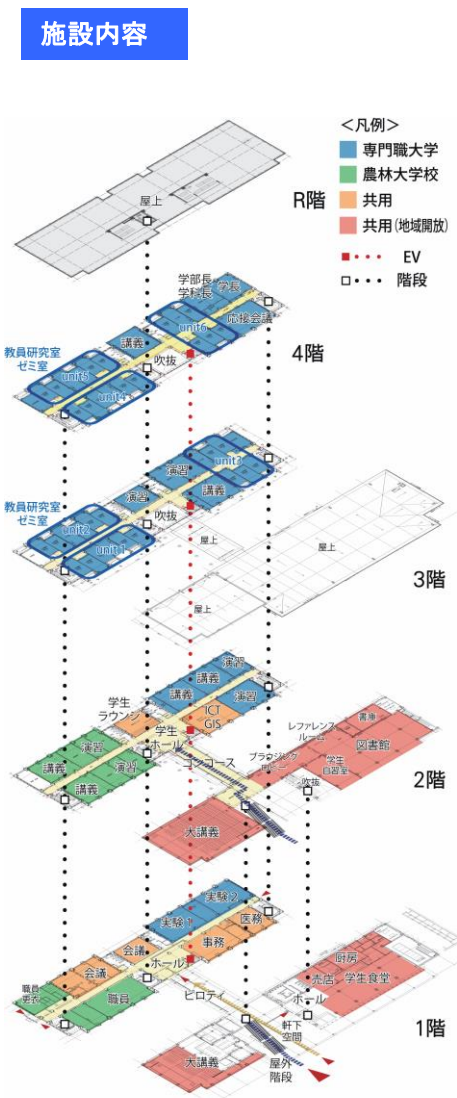
- (1) 同時双方向型（テレビ会議方式）
配信する教員側と受信する専門職大学の教室を通信回線により同時双方向で結び授業を実施。
- (2) オンデマンド型（インターネット配信方式）
教員が作成したオンラインプログラム（授業1コマごとの映像教材等）を通信回線から専門職大学の教室で受信し授業を実施。

9 編入学定員の計画

- (1) 3年次編入学定員：農業経営学科2名、森林業経営学科2名
- (2) 編入学生の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
 - ① 農業又は森林業に関する基礎的な知識と技術を身に付けている人。（大学、短期大学又は専修学校の農業又は森林業に関する課程を卒業した者（卒業見込みを含む。））
 - ② 論理的に思考し、表現できる人。
 - ③ 多様性を認め、他者と協働して行動し、課題に対して主体的に取り組む努力ができる人。
 - ④ 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、柔軟な思考力を備えている人。
 - ⑤ 農業又は森林業に高い関心を持ち、農業又は森林業の課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する強い意欲がある人。
- (3) 試験：書類審査、面接及び志望理由書
- (4) 既修得単位：60単位を目安に、入学時に個別具体的に認定

10 施設・設備等の整備計画

- (1) 校舎
講義、演習、実習等に必要の教室（大講義室、講義室、演習室、ICT・GIS教室、実験室）を整備。
教員研究室は1人部屋を30室、学生演習室は6部屋を整備。
教員研究室（5室）と学生演習室（1室）を1ユニットとし、計6ユニット配置し、卒業研究やグループ単位での研究に対応。
稲作、果樹、野菜・花き、畜産、農産加工、森林業の各分野ごとに、実習の際活用する教育研究施設をキャンパス内に整備。
その他、学長室、会議室、事務室、医務室、学生自習室、学生ラウンジ等を整備。
- (2) 施設・設備等
実習等に必要の附属施設（農場、飼育場、演習林）、分析機器等の設備や器具を整備。
大学敷地内に、体育館、グラウンド、キャリアサポートセンターを整備。
- (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画
蔵書数は約5万冊分のスペースを用意。カリキュラムに必要な図書を整備。閲覧席、レファレンス・コーナー、整理室、ロビー、AVコーナーを整備。



11 入学者選抜の概要

「入学受入れの方針」を踏まえ、以下の入試内容を適切に組み合わせ実施。また、科目等履修生及び聴講生も受入れ。

- 【入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】
- ① 高等学校で習得すべき基礎学力を身に付けている人
 - ② 論理的に思考し、表現できる人
 - ③ 多様性を認め、他者と協働して行動し、課題に対して主体的に取り組む努力ができる人
 - ④ 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、柔軟な思考力を備えている人
 - ⑤ 農業又は森林業に高い関心を持ち、農業又は森林業の課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある人

区分	一般選抜	総合型選抜	指定校推薦型選抜	特別選抜 (社会人、私費外国人留学生)
対象	山形県内外を問わず、農業又は森林業に高い関心を持ち、農業又は森林業の課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある者	高校等を卒業見込み又は卒業しており、本専門職大学が指定する基準以上の学業成績があり、農業又は森林業に高い関心を持ち、課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある者	指定する高校を卒業見込みで、本学が指定する基準以上の学業成績があり、農業又は森林業に高い関心を持ち、課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲があると校長が認め、及び推薦する者	社会人：満22歳以上かつ勤務経験3年以上の者。 私費外国人留学生：日本語能力試験でN2以上の成績を修めた者又は相当と認められる日本語能力を有する者。
選考方法	・大学入学共通テスト3科目 ①英語 ②「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」の中から1科目選択 ③「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の中から1科目選択 ※「基礎」を選択する場合、『「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」』のうち2科目の問題を選択回答 ・面接 ・小論文 ・調査書 ・志望理由書	・調査書 ・小論文 ・面接 ・志望理由書	・調査書 ・面接 ・志望理由書	・書類 ・面接 ・志望理由書
人数	農業経営学科10名 森林業経営学科2名	農業経営学科10名 森林業経営学科2名 東北6県の高校出身者向けの優先枠を設けることを検討	農業経営学科12名 森林業経営学科4名 県内高校から推薦	農業経営学科 若干名 森林業経営学科 若干名 総合型選抜の内数

12 取得可能な資格

農業に必要な多くの資格が取得可能。

○農業経営学科

資格名	職業との関係
小型車両系建設機械(整地、積込み、運搬)特別教育	農耕用機械の操作・運転
フォークリフト運転技能講習	
大型特殊自動車免許(農耕用)	経理
刈払機取扱作業(刈払機取扱作業安全衛生教育修了)	
日商簿記検定(2級)※1	経営の多角化
食の6次産業化プロデューサー(レベル3)※2	

○森林業経営学科

資格名	職業との関係
刈払機取扱作業(刈払機取扱作業安全衛生教育修了)	林業機械の操作・運転
チェーンソーによる伐木造材作業等の特別教育	
小型車両系建設機械(整地、積込み、運搬)特別教育	
車両系建設機械運転技能講習(整地・運搬・積込・掘削)	
伐木等機械の運転の業務に係る特別教育	救急対応
走行集材機械の運転の業務に係る特別教育	
簡易架線集材装置の運転又は架線集材機械の運転の業務に係る特別教育	経理
赤十字救急法基礎講習(赤十字ベーシックライフサポーター認定証)	
赤十字救急法救急員(赤十字ファーストエイドプロバイダー)認定証	森林情報処理
日商簿記検定(2級)※1	
森林情報士2級(森林GIS)※2	

※1 試験範囲を網羅した授業を実施。資格取得のためには検定試験を受験して合格する必要がある。

※2 指定の科目を履修することで、資格取得の要件が満たされる。資格取得を希望する場合は、資格審査事務局に申請する必要がある。

13 実習の具体的な計画

(1) 概要

- 1年次：農業又は森林業の業態ごとの基礎的な生産管理の技術を修得する学内施設での実習、その経営実態について理解を深める実地体験実習等を実施。
- 2年次：学生が将来経営の軸にしたい分野における発展的な生産管理の技術を修得する学内施設での実習及び当該分野に対応した実地での生産管理に関する知識や技術を実践する臨地実務実習を実施。
- 3年次：3年次では、農業又は森林業の業態ごとの加工及び販売の知識や技術を修得する学内施設での実習、学生が将来経営の軸にしたい分野における経営管理に関する知識や技術を実践する臨地実務実習を実施。
- 4年次：学生が将来経営したい分野における生産管理及び経営管理に関する知識、技術及びそれまでの実務経験を総合化する臨地実務実習を実施。

(2) 実習の種類

○学内実習

- ・圃場実習、演習林実習：学内の圃場や演習林で、農業生産・林業生産に関する基礎的な内容から実践的かつ先進的な生産技術まで身に付ける実習
- ・食品製造・販売実習、木材加工・販売実習：6次産業化等の基礎的な知識と技術等の消費マーケットを見据えた加工・販売が行える能力や、木材加工と販売に関する知識と技術等の市場動向を見据えた加工・販売が行える能力を身に付ける実習

○実地体験実習

優れた農業経営体や森林業経営体におけるオムニバス形式で経営実態の理解を深める実地体験実習

○臨地実務実習

- ・東北6県の農業経営体又は森林業事業体において、これらの有する生産技術及び経営管理に関する実践的な知識、技術、経営戦略等を効率的かつ効果的に学修する、2年次から4年次までの3年間にわたる段階的・継続的な実習（各年30日間）
- ・実習の時期は、山形の特徴的な農産物の栽培歴や森林施業が実施可能な適期を考慮した「臨地実務実習ウィーク」に実施。
- ・学生は実習先と調整のうえ、各学期の「臨地実務実習ウィーク」（計30日間）の中から、任意の計15日間を選択し、集中的に実施。

○国際農業・森林業実習

将来の農業又は森林業経営の参考とするため、海外の大学や先進農業地又は先進森林業地等への短期体験留学を通して、海外の農業又は森林業経営の実態について学ぶ実習

臨地実務実習 ウィークの 実施時期	前期(授業期間:4月～7月)	4月中下旬、5月中下旬、6月下旬～7月上旬
	後期(授業期間:9月～12月)	9月中下旬、10月中下旬、12月上中旬

【臨地実務実習先候補者】

	農業経営体※1								森林業事業体※1				合計
	稲作	畑作	果樹	野菜	花き	畜産	その他※2	小計	素材生産	製材・木材加工	特用林産	小計	
山形県内	114	2	59	49	20	32	1	277	24	17	8	49	326
山形県外※3	7	1	2	12	2	3		27	3	3		6	33

※1 農業経営体及び森林業事業体の経営形態別の数値は、経営の主力(柱)となっている分野・業態で分類

※2 その他は、産直組織□

※3 山形を除く東北各県

14 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的な計画

- (1) 科目の概要：「国際農業・森林業実習」（2年次又は3年次：自由2単位）
- (2) 時期：2年次又は3年次の春季休業期間中（1月下旬～3月末日）
- (3) 期間：7日間
- (4) 行先：将来の農業又は森林業経営の参考となる先進的な取組等を学ぶことができる海外の大学や農業地又は森林業地等

15 管理運営

(1) 学長

大学の校務をつかさどり、所属職員を統督する立場から、学生の入学及び卒業、学位の授与、「3つのポリシー」（学位授与方針、教育課程の編成及び実施の方針及び学生受入れの方針）の変更、教育課程の変更等の決定等、教学面の事項について権限を有する。

(2) 教授会

農林業経営学部の運営に関する重要事項（学生の入学及び卒業、学位の授与、「3つのポリシー」の変更、教育課程の変更等）を審議するため設置。全ての教授及び准教授で構成。

(3) 教育課程編成検討会議

教育課程の新設及び改廃を自律的に検討するため設置。併せて、職業専門科目の専門的検討を行うため、本検討会議の下に農業経営部会及び森林業経営部会を設置。検討会議は学部の全専任教員、部会は各学科の全ての専任教員で構成。

(4) 専門委員会

本専門職大学の校務を分担するため、学長の下に入試・広報委員会、教務学生委員会、自己点検評価・SDFD委員会等の専門委員会を置く。

16 自己点検・評価

(1) 自己点検評価・SDFD委員会において教育研究水準の向上に資する自己点検・評価を行い、その結果を踏まえ教育研究活動の改善を図る。その結果は大学ホームページ等で公表。

(2) 評価項目：理念・目的・教育目標、教育研究組織、教育課程、学習成果、学生の受入れ、学生の支援、教育研究等環境、社会貢献、管理運営、事務組織、財務、内部質保証 等

17 情報の公表

(1) 公表方法：大学ホームページへの掲載、大学案内などの刊行物等。

(2) 公表内容：教育研究上の目的、教育研究上の基本組織、教員組織、教員の数・教員の業績等、入学者に関する受入れ方針、入学者数等、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画、教育研究環境、授業料、入学料 等

18 教育内容の改善を図るための組織的な研修等

(1) 教育研究上の理念と教育目標に係る研修会の実施（開学前・開学後は定期的開催）

(2) 学生による授業評価の実施

(3) 「学生による授業評価」を活用した授業検討会、教職員間の情報交換、体験報告等の研修、学外で開催される研究会や研修会への教職員派遣 等

19 社会的・職業的自立に関する指導及び体制

(1) 教育課程内の取組

就農・就業に備え、社会的・職業的自立に資するようにカリキュラムを組み立てる。

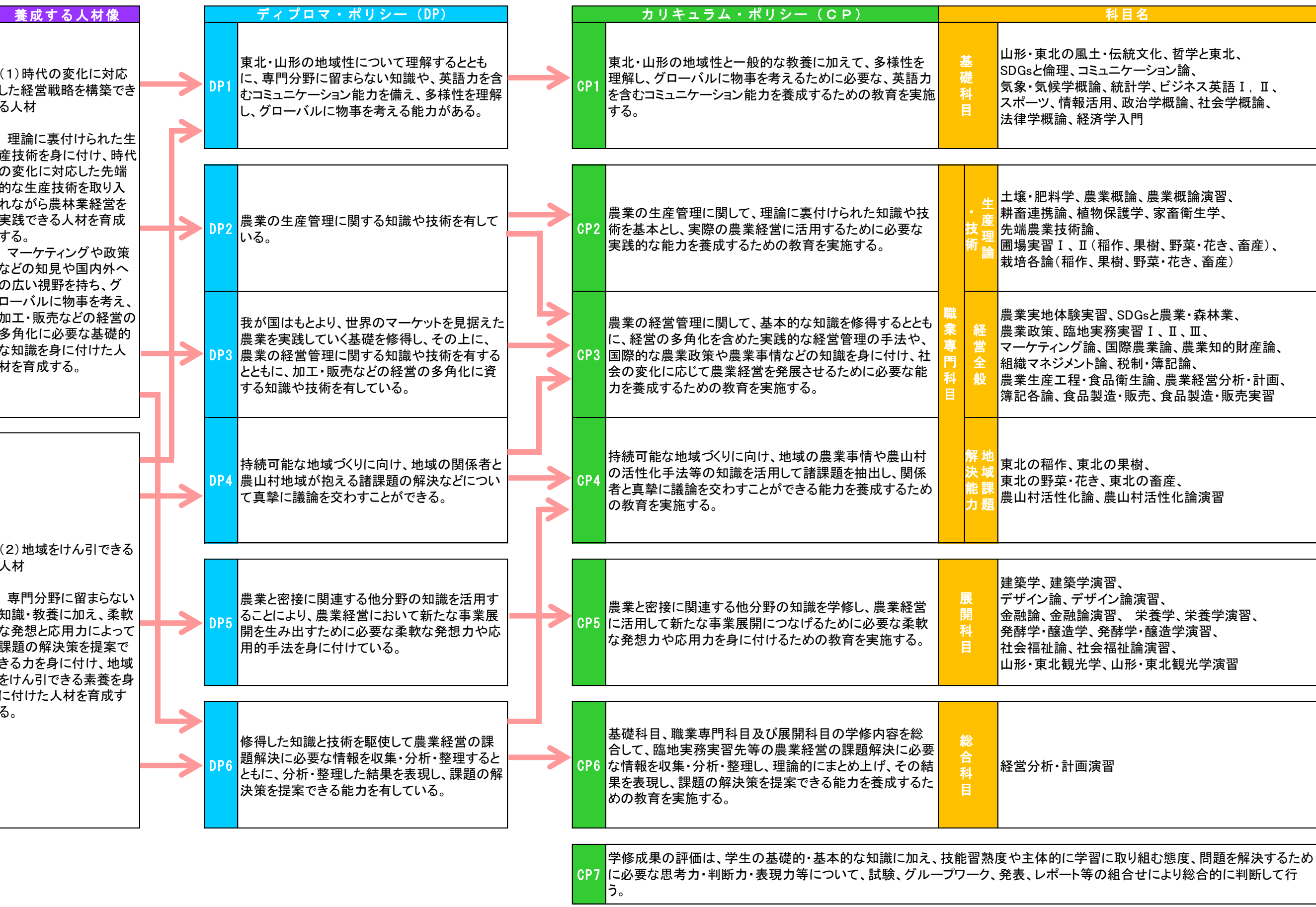
卒業研究の担当教員が所属学生の就農・就業指導に当たるほか、教職員がオフィスアワーなどを活用して学生の履修や就農・就業の指導・支援に当たるなど、組織的に取り組む。

(2) 教育課程外の取組

「キャリアサポートセンター」を設置し、学生のキャリア形成支援と就農・就業活動支援を行う。県関係機関での経験豊富な職員を配置し、各学生の就職希望に適した就農・就業活動支援を実施。

(3) 卒業後の支援

キャリアサポートセンターと、各分野の研究所や各地域の普及機関が連携し、卒業後も卒業生が必要な支援を的確に受けられる体制を整備。



養成する人材像

(1) 時代の変化に対応した経営戦略を構築できる人材

理論に裏付けられた生産技術を身に付け、時代の変化に対応した先端的生产技術を取り入れながら農林業経営を実践できる人材を育成する。

マーケティングや政策などの知見や国内外への広い視野を持ち、グローバルに物事を考え、加工・販売などの経営の多角化に必要な基礎的な知識を身に付けた人材を育成する。

(2) 地域をけん引できる人材

専門分野に留まらない知識・教養に加え、柔軟な発想と応用力によって課題の解決策を提案できる力を身に付け、地域をけん引できる素養を身に付けた人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー (DP)	
DP1	東北・山形の地域性について理解するとともに、専門分野に留まらない知識や、英語力を含むコミュニケーション能力を備え、多様性を理解し、グローバルに物事を考える能力がある。
DP2	森林資源の生産管理に関する知識や技術を有している。
DP3	我が国はもとより、世界のマーケットを見据えた森林業を実践していく基礎を修得し、その上に、森林業の経営管理に関する知識や技術を有するとともに、加工・販売などの経営の多角化に資する知識や技術を有している。
DP4	持続可能な地域づくりに向け、地域の関係者と農山村地域が抱える諸課題の解決などについて真摯に議論を交わすことができる。
DP5	森林業と密接に関連する他分野の知識を活用することにより、森林業経営において新たな事業展開を生み出すために必要な柔軟な発想力や応用的手法を身に付けている。
DP6	修得した知識と技術を駆使して森林業経営の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現し、課題の解決策を提案できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー (CP)	
CP1	東北・山形の地域性と一般的な教養に加えて、多様性を理解し、グローバルに物事を考えるために必要な、英語力を含むコミュニケーション能力を養成するための教育を実施する。
CP2	森林資源の生産管理に関して、理論に裏付けられた知識や技術を基本とし、実際の森林業経営に活用するために必要な実践的な能力を養成するための教育を実施する。
CP3	森林業の経営管理に関して、基本的な知識を修得するとともに、経営の多角化を含めた実践的な経営管理の手法や、国際的な森林業政策や森林業事情などの知識を身に付け、社会の変化に応じて森林業経営を発展させるために必要な能力を養成するための教育を実施する。
CP4	持続可能な地域づくりに向け、地域の森林業事情や農山村の活性化手法等の知識を活用して諸課題を抽出し、関係者と真摯に議論を交わすことができる能力を養成するための教育を実施する。
CP5	森林業と密接に関連する他分野の知識を学修し、森林業経営に活用して新たな事業展開につなげるために必要な柔軟な発想力や応用力を身に付けるための教育を実施する。
CP6	基礎科目、職業専門科目及び展開科目の学修内容を総合して、臨地実務実習先等の森林業経営の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、理論的にまとめ上げ、その結果を表現し、課題の解決策を提案できる能力を養成するための教育を実施する。
CP7	学修成果の評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について、試験、グループワーク、発表、レポート等の組合せにより総合的に判断して行う。

科目名					
基礎科目	山形・東北の風土・伝統文化、哲学と東北、SDGsと倫理、コミュニケーション論、気象・気候学概論、統計学、ビジネス英語Ⅰ、Ⅱ、スポーツ、情報活用、政治学概論、社会学概論、法律学概論、経済学入門				
生産理論・技術	森林土壌・樹木学、造林学、森林生産学、森林労働安全衛生論、非木材森林産品概論、森林生態系サービス保全利用論、森林保護学、森林保全学、測量学、森林情報学、先端森林業技術論、演習林実習Ⅰ、Ⅱ				
職業専門科目	<table border="1"> <tr> <td>経営全般</td> <td>森林業実地体験実習、SDGsと農業・森林業、国際森林業論、森林環境政策、組織マネジメント論、森林経営管理学、マーケティング論、森林業経営分析・計画、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、木質科学概論、木材利活用論、木材加工・販売実習</td> </tr> <tr> <td>地域課題</td> <td>東北の森林資源管理、東北の森林資源利活用、農山村活性化論、農山村活性化論演習</td> </tr> </table>	経営全般	森林業実地体験実習、SDGsと農業・森林業、国際森林業論、森林環境政策、組織マネジメント論、森林経営管理学、マーケティング論、森林業経営分析・計画、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、木質科学概論、木材利活用論、木材加工・販売実習	地域課題	東北の森林資源管理、東北の森林資源利活用、農山村活性化論、農山村活性化論演習
経営全般	森林業実地体験実習、SDGsと農業・森林業、国際森林業論、森林環境政策、組織マネジメント論、森林経営管理学、マーケティング論、森林業経営分析・計画、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、木質科学概論、木材利活用論、木材加工・販売実習				
地域課題	東北の森林資源管理、東北の森林資源利活用、農山村活性化論、農山村活性化論演習				
展開科目	建築学、建築学演習、デザイン論、デザイン論演習、金融論、金融論演習、栄養学、栄養学演習、発酵学・醸造学、発酵学・醸造学演習、社会福祉論、社会福祉論演習、山形・東北観光学、山形・東北観光学演習				
総合科目	経営分析・計画演習				

カリキュラムマップ（案）（農業経営学科（仮称））

科目	教育課程								
	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目 (20単位)	■地域等の特性(4単位)【DP1】 山形・東北の風土・伝統文化 2				哲学と東北 2				
	■コミュニケーション能力(6単位)【DP1】 (自由)英語基礎 2 コミュニケーション論 2		ビジネス英語 I 2 ビジネス英語 II 2						
	■一般教養(人間と自然・スポーツ・社会・情報)(10単位)【DP1】 スポーツ 1 SDGsと倫理 2 2単位を選択 気象・気候学概論 2 統計学 2 (自由)生物学 2 (自由)化学 2 (自由)物理学 2		情報活用 1 2単位を選択 政治学概論 2 社会学概論 2 法学概論 2		経済学入門 2				
職業専門 科目 (83単位)	■生産理論・技術(30単位)【DP2】 土壌・肥料学 2 農業概論 4 耕畜連携論 1 圃場実習 I 8		農業概論演習 2 2単位を選択 植物保護学 2 家畜衛生学 2		先端農業技術論 1 2単位を選択 栽培各論(稲作) 2 栽培各論(果樹) 2 栽培各論(野菜・花き) 2 飼育各論(畜産) 2 8単位を選択 圃場実習 II(稲作) 8 圃場実習 II(果樹) 8 圃場実習 II(野菜・花き) 8 圃場実習 II(畜産) 8				
	■経営全般(47単位)【DP2】【DP3】【DP4】 農業実地体験実習 1		SDGsと農業・森林業 2 臨地実務実習 I(生産管理等) 8 国際農業論 1 (自由)国際農業・森林業実習 2 農業生産工程・食品衛生論 2		農業政策 2 組織マネジメント論 2 農業経済学 2 食品製造・販売 2		マーケティング論 2 農業経営分析・計画 2 税制・簿記論 1 簿記各論 1 臨地実務実習 II(経営管理等) 8 どちらか1つの履修時期を選択 (自由)国際農業・森林業実習 2		
	■地域課題解決能力(6単位)【DP4】【DP6】		2単位を選択 東北の稲作 2 東北の果樹 2 東北の野菜・花き 2 東北の畜産 2		農山村活性化論 2 農山村活性化論演習 2				
展開科目 (20単位)	■応用的・創造的能力(20単位)【DP5】 2講義(1~4年前期):2単位、演習(1~4年後期):2単位 ※講義10単位と演習10単位を選択								
総合科目 (4単位)	デザイン論 デザイン論演習		金融論 金融論演習		発酵学・醸造学 発酵学・醸造学演習		建築学 建築学演習		
						社会福祉論 社会福祉論演習		栄養学 栄養学演習	
								山形・東北 観光学 山形・東北 観光学演習	
								経営分析・計画演習 4	

＜カリキュラムの概要＞

1年
農業の分野全般にわたる講義・演習と実習等を通じ、自分が将来的に経営したい分野への理解を深める
↓

2年
自らが将来経営の軸にしたい分野を中心とした生産管理の学び等を深める
↓

3年
農業経営に必要となる経営管理の学び等を深める
↓

4年
これまで学んだ生産管理及び経営管理の学び等を総合化し、就農に備える

カリキュラムマップ（案）（森林業経営学科（仮称））

科目	教育課程													
	1年		2年		3年		4年							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目 (20単位)	■地域等の特性(4単位)【DP1】 山形・東北の風土・伝統文化 2						哲学と東北 2							
	■コミュニケーション能力(6単位)【DP1】 (自由)英語基礎 2 コミュニケーション論 2		ビジネス英語 I 2 ビジネス英語 II 2											
	■一般教養(人間と自然・スポーツ・社会・情報)(10単位)【DP1】 スポーツ 1 (自由)生物学 2 (自由)化学 2 (自由)物理学 2		SDGsと倫理 2 2単位を選択 気象・気候学概論 2 統計学 2		情報活用 1 2単位を選択 政治学概論 2 社会学概論 2 法律学概論 2		経済学入門 2							
職業専門科目 (85単位)	■生産理論・技術(33単位)【DP2】 森林土壌・樹木学 2 造林学 2 森林生産学 2 森林労働安全衛生論 1 演習林実習 I 8		非木材森林産品概論 1 森林生態系サービス保全利用論 1 森林保護学 2 森林保全学 2 演習林実習 II 8		測量学 2 森林情報学 1		先端森林業技術論 1							
	■経営全般(46単位)【DP2】【DP3】【DP4】 森林業実地体験実習 1		臨地実務実習 I (生産管理等) 8 国際森林業論 1 (自由)国際農業・森林業実習 2 木質科学概論 2		SDGsと農業・森林業 2 木材利活用論 2		森林環境政策 2 組織マネジメント論 2 森林経営管理学 2 臨地実務実習 II (経営管理等) 8 どちらか1つの履修時期を選択 (自由)国際農業・森林業実習 2 木材加工・販売実習 2		マーケティング論 2 森林業経営分析・計画 2 税制・簿記論 1 簿記各論 1		臨地実務実習 III (経営総合) 8			
	■地域課題解決能力(6単位)【DP4】【DP6】		2単位を選択 東北の森林資源管理 2 東北の森林資源利活用 2				農山村活性化論 2 農山村活性化論演習 2							
	■応用的・創造的能力(20単位)【DP5】				講義(1~4年前期):2単位、演習(1~4年後期):2単位 ※講義10単位と演習10単位を選択									
展開科目 (20単位)	デザイン論	デザイン論 演習	金融論	金融論演習	発酵学 ・醸造学	発酵学 ・醸造学演習	建築学	建築学演習	社会福祉論	社会福祉論 演習	栄養学	栄養学演習	山形・東北 観光学	山形・東北 観光学演習
総合科目 (4単位)	■総合的能力(4単位)【DP6】										経営分析・計画演習 4			

＜カリキュラムの概要＞

1年
森林業の分野全般にわたる講義・演習と実習等を通じ、自分が将来的に経営したい分野への理解を深める

↓

2年
自らが将来経営の軸にしたい分野を中心とした生産管理の学び等を深める

↓

3年
森林業経営に必要な経営管理の学び等を深める

↓

4年
これまで学んだ生産管理及び経営管理の学び等を総合化し、就業に備える